

第55回公的扶助研究全国セミナー-長野大会

出会い、学び、語る、貧困と生活保護 ~信州でずくを出してつながろう~

開催要綱



申込はコチラから

佐久大学

2023年11月

11(土).12(日)

『健康で文化的な最低限度の生活』 ©柏木ハルコ/小学館G週刊 ピッグコミックスピリッツ連載中)

- 《主催》 全国公的扶助研究会・第55回公的扶助研究全国セミナー長野大会実行委員会
- 《協賛》 佐久大学
- 《後援》 長野県・佐久市・長野県社会福祉協議会・長野県医療ソーシャルワーカー協会
長野県社会福祉士会・長野県精神保健福祉士協会・長野県介護支援専門員協会
日本社会福祉士会・日本医療ソーシャルワーカー協会
日本精神保健福祉士協会・日本ソーシャルワーカー協会

4年ぶりの対面でのセミナーで、 貧困、生活保護、支援について語り合しましょう！

全国のケースワーカーをはじめ生活保護関係者の皆さん。福祉関係者の皆さん。

第55回公的扶助研究全国セミナーは4年ぶりの対面で、長野・佐久大学にて開催します。

今年7月に3年ぶりに公表された日本の貧困率は15.4%(6.5人に1人。人口では1932万人に相当)でした。ここにいう貧困とは1人暮らし・年収で127万円(月10.6万円)未満で暮らす人の生活状態をいいます。これに対して2021年の生活保護利用者は204万人で、貧困とされる人のうちわずか10.6%でした。生活保護利用者が低い理由は、生活保護の条件の厳しさ、スティグマ(生活保護への忌避感情)に加え、この10年間に4回にわたる保護費基準の引下げが影響しています。2013年からの生活扶助基準の引下げについては裁判で争われており、原告が多くの勝訴判決を得るなど異例の展開となっています。加えて40年ぶりの物価高騰は保護世帯の生活に追い打ちをかけており、今改めて、私たちは保護基準とナショナルミニマムについて向き合うことが求められています。

いま、生活保護運用をめぐる自動車、扶養、大学進学、外国人などが焦点となっています。また、今年は子どもの貧困対策法ができて10周年を迎え現状を振り返ること、さらにヤングケアラー、性的マイノリティーなどの新たな課題への対応も迫られています。

今年は、1963年の第1回全国セミナー(箱根開催。テーマ「公的扶助ケースワークをめぐる仲村・岸論争」)から60周年を迎えます。今年のセミナーでは、半世紀を超える先輩や仲間の皆さんの営為、実践を振り返り、新たな出発点にしたいと思えます。

秋の佐久平で、4年ぶりの対面での交流を楽しみにしております。ずくを出してつながろう！

※「ずく」は信州弁で「意欲、活力、やる気」などの意

2023年8月 全国公的扶助研究会会長 吉永純

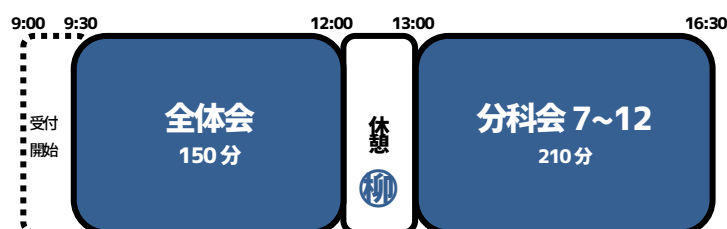
タイムテーブル

時間が重複する企画は選択式となります
一部の企画はアーカイブ配信します

1日目
11日(土)



2日目
12日(日)



柳沢京子さんトークショー 2日目 12:20-12:40

常設展示 柳沢京子さんミニ個展



講座1～8 1日目 11月11日(土) 午前

【講座1】 CW 向け生活保護基礎講座 10:00-12:00

アーカイブ
配信あり

「生活保護はどういう制度か？」～制度の概略・実務のポイントとその学び方～

生活保護ケースワーク業務に従事して3年以内くらいの人を主な対象とし、「仕事に慣れていくためには、個々の問題を解決する経験を積み上げるのが一番だが、制度の全体イメージを把握することも大切」という考え方で、「制度の基本構造・学び方から実務でよく行き会う事柄」まで取り扱います。ベテランの方の「学び直し」や「職場研修の材料提供」にも役立てるよう頑張って資料を準備します。

講師：森 宣秋さん（京都市保健福祉局生活福祉課） 助言者：高階 康裕さん（京都市北福祉事務所）

【講座2】 他機関向け生活保護入門講座 10:00-12:00

アーカイブ
配信あり

「他機関向け生活保護入門講座」～イチから学ぶ生活保護の基本～

生活保護利用者、ケースワーカーと関わる関係機関、福祉を学ぶ学生、などを対象とした講座です。福祉事務所の機能やケースワーカーの役割、給付内容や利用要件など、生活保護制度の基本について、制度に精通したベテラン講師が分かりやすく説明します。

※他機関向けの企画ですので、福祉事務所職員の方は参加をご遠慮ください

講師：長友 祐三さん（田園調布学園大学） 上村 正朗さん（新潟県村上市議、元新潟県職員）

【講座3】 生活保護裁判 10:00-12:00

アーカイブ
配信あり

「生活保護裁判と審査請求」～1年間の動向～

昨年の全国セミナーから今年までの1年間に出生された裁判と審査請求を振り返ります。裁判では「いのちのとりで裁判」(2013年からの引下げの取消しを求める裁判)で多くの原告勝訴判決が出され、その他指導指示をめぐる裁判や障がい者の自動車保有をめぐる裁判などが注目されます。裁判では、遠隔地への通院の可否、重度障害者加算、3か月をこえる遡及支給などの裁決が注目されます。これらをわかりやすく解説します。

講師：高木 佳世子さん（筑紫女学園大学） 吉永 純さん（花園大学）

【講座4】 扶養と自動車 10:00-12:00

アーカイブ
配信あり

「扶養と自動車」～生活保護決定実施上の悩みを考える～

ケースワーカーにとって生活保護決定実施上の悩みは様々にありますが、扶養照会や自動車保有は大きな課題です。扶養は厚労省が2021年に新通知を出し、ほとんどの場合は調査がいなくなりましたが現場では周知されていません。自動車も地域等によっては生活維持に必要不可欠ですが、どう考えていくのが良いのか。2022年セミナーで大好評だった分科会を今年も開催します。ふるってご参加ください。

講師：太田 伸二さん（弁護士・元ケースワーカー） 林 直久さん（京都市中京福祉事務所）

【講座5】 農村における貧困 10:00-12:00

アーカイブ
配信あり

「『農村』の貧困を通して現代の貧困とその対策を考える」

農村における大量の潜在化した貧困やその生活実態が、日本全体の貧困の理解や把握のあり様に大きな影響を及ぼしています。とりわけ、「最低基準」以下の生活が放置されてしまうような農村特有の弾力的な生活様式・構造は日本の貧困構造の死(し)錘(すい)となっています。また、そうした中で農村住民の貧困観や貧困意識は社会保障利用者に対するスティグマや排除につながり、生活保護の受給や社会保障の利用をけん制・抑制し合う力として働いています。これらをふまえ、自治体・地域・実践の各レベルでどのような取り組みができるか一緒に考えましょう。

講師：佐藤 嘉夫さん（佐久大学） 増田 文昭さん（長野生活と健康を守る会）

講座1～8 1日目 11月11日(土) 午前

【講座6】 生活困窮者自立支援制度 10:00-12:00

アーカイブ
配信あり

「生活就労支援センター“まいさぼ”が目指すもの」

生活困窮者自立支援法の理念と、長野県内の自立相談支援機関(各市・郡部とも生活就労支援センター“まいさぼ”の名称で統一)の特徴、CWとの関係事例や課題、支援のための仕組みや資源開発、ソーシャルアクションの取り組み経過などについて紹介します。生活困窮者自立支援制度と生活保護制度の関係や課題を学び、セーフティネットの充実について考えましょう。

講師：土屋 ゆかりさん(生活就労支援センターまいさぼ長野市)
森山 雄大さん(生活就労支援センターまいさぼ県本部)

【講座7】 ヤングケアラー 10:00-12:00

アーカイブ
配信あり

「ヤングケアラーの支援を学ぶ」～実態調査結果と元当事者の声から～

社会的関心が高まってきている「ヤングケアラー」増加の背景や調査に基づく実態などを、事例もまじえながらご紹介致します。また、漫画「48歳で認知症になった母」のモデルとなった元ヤングケアラーの美齊津康弘さんが、ご自身の経験と想いを語ります。それぞれの立場で、ヤングケアラーのアウトリーチやかかわり、支援をどのようにしていくか、ともに学び深めていきましょう。

講師：曲淵 紀子さん(長野県社会福祉士会) 助言者：美齊津 康弘さん(一般社団法人生活互助支援の会)

【講座8】 LGBT 10:00-12:00

アーカイブ
配信あり

「LGBTと貧困」～制度の谷間にあるニーズ～

企業研修、教育現場などでLGBT(性的少数者)についての啓発が進んでいますが、貧困や社会的排除について語られることは多くありません。また、LGBT当事者のメンタルヘルス問題は深刻だと言われています。この講座では、LGBT基礎知識の他、長野県内での若者支援、都内でのホームレス支援などについてそれぞれお話をいただきます。LGBTを取り巻く状況について、既に共に住んでいるみなさんでまずは知ることから始めてみませんか。

報告者：金井 聡さん(LGBTハウジングファーストを考える会・東京) 小泉 涼さん(ダイバーシティ信州)
横田 敏さん(板橋福祉事務所)

分科会1～7 1日目 11月11日(土) 午後

【分科会1】 子どもと生活保護 13:00-16:30

「子どもと生活保護」

～「学びたい」を支える～

子どもの貧困対策推進法の成立から早10年。生活保護利用世帯の子どもたちへの支援は進んでいるのか。高校・大学進学のための学習支援、居場所のない子どもたちへのサードスペースの確保、飽食のなかでの食料支援などまだ解決されないばかりか、ケースワーカーの関わり脆弱さは増大しています。本分科会では、ケースワーカーの子どもたちへの関わり方を支援者や大学進学により世帯分離されている当事者の語りから考えていきます。

講師・助言者：下村 幸仁さん(佐久大学)
助言者：鈴木 忠義さん(長野大学)

【分科会2】 女性の貧困 13:00-16:30

「女性の貧困はなぜ見えにくいのか」

～都市と地方に暮らす女性の支援にむけて～

2020年から続いた新型コロナ下の生活は女性が困難な状況に直面していることを浮き彫りにしました。一方で以前より存在している「女性の貧困」はなぜ可視化されてこなかったのでしょうか。生活相談等の現場に寄せられる女性の現状や女性の生活歴についての報告を通して、都市や地方で暮らす女性が直面する貧困を社会の視点より見つめます。支援の糸口を共に考えていくために、女性の支援に関心をもつ様々な分野の方の参加を待っています。

報告者：木下 愛加里さん(佐久大学) 林原 理佳さん(杉並区杉並福祉事務所)

分科会 1～7 1日目 11月11日(土) 午後

【分科会3】 医療と福祉の地域づくり 13:00-16:30

「地域における医療・福祉の連携」

～相談活動を基盤とした生活困窮者支援の展開～

怪我や病気は早期発見早期治療であるほど、回復が早く患者の負担が少ないように、生活困窮も傷つきや喪失が大きくなる前の早期支援が重要です。上伊那地域で始まった「なんでも無料相談会」は、コロナ禍で生活困窮者の相談が急増する中で行政・医療・福祉などの様々な機関が連携し、悩みを受け止め支援につなげる活動です。相談会などの活動報告を切り口に多機関協働の地域づくりについてみなさんと話し合います！

助言者 : 池田 和彦さん(筑紫女学園大学)

報告者 : 鮎澤 ゆかりさん(上伊那生協病院) 安積 正人さん(箕輪町役場福祉係)

【分科会4】 高齢者 13:00-16:30

「ケースワーカーとケアマネジャーの連携」

～共感と共同を生む生活アセスメントの可能性～

ケースワーカーとケアマネジャーの連携はどうあるべきか。ケアマネジャーと地域包括支援センター職員の報告から、①医療、金銭管理、家庭訪問等の各場面において、ケースワーカーとケアマネジャーはいかに連携しているのか、②連携を阻害・促進するのは何かを明らかにします。そして、より良い連携の観点から、③高齢者の生活を歴史的・社会構造的に捉える「生活アセスメント」の可能性を参加者全員で意見交換してみたいと思います。

報告者 : 磯野 博さん(静岡福祉医療専門学校) 林 みな美さん(都内地域包括支援センター)
春日 晋さん(長野県介護支援専門員協会)

【分科会5】 滝山病院事件 13:00-16:30

「滝山病院事件」

～ルポ「死亡退院」の衝撃と地域で支えるということ～

今年2月に放映されたNHK「ルポ死亡退院～精神医療・闇の実態～」は福祉関係者のみならず、多くの視聴者に衝撃を与えました。滝山病院での入院患者に対して凄惨な虐待、同院の入院患者は55%が生活保護を利用、同院へ全国各地の福祉事務所から入院、と伝えられています。なぜこのような事件が起こってしまったのか、今後私たちはどうすればよいのか、番組制作者・行政関係者・精神疾患を持つ当事者や家族の話からみなさんと考えます。

報告者 : 持丸 彰子さん(NHK大阪放送局ディレクター) 横山 秀昭さん(NPO法人大地の会)
横田 敏さん(板橋福祉事務所) 長野県内の当事者を予定

【分科会6】 ケースワークの意義と範囲 13:00-16:30

「ケースワークの意義と範囲」

～生活保護ケースワークの境界線はどこにあるのか～

生活保護ケースワーカーの役割とは何か？その業務範囲について、他機関から理解されていないことも多く、そもそもそれらが整理されていないという課題があります。講師の編著「支援困難事例から考える生活保護ケースワーク(日本加除出版)」の内容をベースに、現場の実情を紹介しつつ、ケースワークの意義と範囲について、参加者同士ディスカッションをしながら検討します。

講師 : 池谷 秀登さん(立正大学) 報告者 : 生活保護ケースワーカーを予定

【分科会7】 漫画と共に考える福祉事務所 13:00-16:30

「漫画『健康で文化的な最低限度の生活』から考える福祉事務所とケースワーカー」

連載開始10年を迎え、本作の社会への影響は福祉事務所のみならず福祉業界全体に及び、5年前には連続ドラマにもなり、好評を博しています。同時にこの間の福祉事務所の変化も作者は目にしてきました。この作品に構想段階からブレーンとして参加し、全話監修している講師が本作の内容とリンクさせながらモデル事例やエピソードなどをモチーフにしてひも解きます。福祉事務所とケースワーカーについて参加者との対話をもとに考える時間です。

講師 : 衛藤 晃さん(神戸市垂水福祉事務所・漫画監修者)

懇親会 1日目 11月11日(土) 夜

ひふみよと 佐久へこいこい 秋の暮

時間：午後5時30分受付開始 午後6時開宴 午後8時終宴予定

会場：ヴィーナスコート佐久平(佐久平駅から1.1km 佐久大学から2.6km)

参加費：5,500円 立食+ビュッフェスタイル 佐久の地酒含む飲み放題コース

「せっかく信州へ来たので、おいしいものを食べたい！」

佐久の市街地に佇む大人の隠れ家レストラン(結婚式場)の一流シェフが、皆さんの気持ちに添えてくれます。全国から集まるセミナー参加者のために、長野の自然が育んだ旬な食材と、セミナー開催地である佐久市の地酒を集めて、この夜だけの特別メニューをビュッフェ方式で提供します。

「交流」も全国セミナーの魅力のひとつです。ひとりで参加する方も多いので、おひとりさまも大歓迎。全国から集まった仲間たちとさまざまなことを語り合いつながり、「交流」を深めながら、おなかもこころも満たしてください。信州の夜は、ここから始まります。

【ご注意】 懇親会は先着200名の定員制です 申込締切10月11日

全体会 2日目 11月12日(日) 午前

時間：午前9時受付開始 午前9時30分スタート(1日目と開始時間が異なります)

アーカイブ
配信あり

【記念講演】いのちのとりで裁判とナショナルミニマム

生活扶助基準の2回にわたる引下げ(2013年から6.5%、2018年から1.8%)により生活保護世帯は厳しい生活を強いられています。その上40年ぶりの物価高が襲っています。保護世帯の一番身近な支援者である私たちケースワーカーをはじめ関係者は保護基準をどのように考えるべきでしょうか。いのちのとりで裁判(2013年からの引下げの取消しを求める裁判)の到達点を確認しながら、生活保護立法時の理念や朝日訴訟の経過と比較して、基準のあり方を考えます。また岩手県職員時代に老齢加算裁判で原告側証人に立った沼田崇子さんが当時の思いを語ります。

講演：尾藤 廣喜さん(弁護士、鴨川法律事務所)

発言：沼田 崇子さん(元岩手県職員)

【リレートーク】長野の貧困と生活保護

生活保護をめぐるのは、依然として子供の貧困への対応や、とりわけ高卒後の大学や専門学校進学者への世帯分離の扱い、また、生活の「足」になっている自動車についての制限、さらに今や300万人を超える在留外国人への生活保護の適用などが重要な課題となっています。これらの課題について長野での実状を当事者、支援者がリレートークによって語ります。

登壇者：小林啓子さん(長野の子ども白書事務局長)

大学進学で世帯分離となった元大学生

児玉典子さん(反貧困セーフティネット・アルプス世話人)

生活保護利用者

長野県内の生活保護ケースワーカー

【ご注意】 全体会は先着300名の定員制です

分科会8~13 2日目 11月12日(日) 午後

【分科会8】 ひきこもり支援 13:00-16:30

「ひきこもりの理解とその支援」

内容を一部更新しました



内閣府の2022年度の調査結果によると、ひきこもりの人数は146万人と前回調査と比較して20万人以上の増加となっています。ひきこもりのご本人とご家族への支援のあり方について、生活保護ケースワーカーは迷いや悩みを持たれているのではないのでしょうか。本分科会では、親・行政・マイサポ・NPO等のそれぞれの立場からご発言いただき、ひきこもりの理解と支援の在り方について意見交流を深めたいと思います。

助言者：長谷川 俊雄さん(social work lab MIRAI)

報告者：内山 聡也さん(生活就労支援センターまいさぼ上田)

片桐 政勝さん(ひらく~あずみの不登校を考える親の会~)

分科会 8～13 2日目 11月12日(日) 午後

【分科会9】 CW初級学校 13:00-16:30

新任ケースワーカー限定 「生活保護新任ケースワーカーのための学びの場」

※初級学校は経験年数1年未満の生活保護ケースワーカーを対象とした学びの場です。

福祉事務所長経験のある講師を迎えて、ケースワーカーとしての基本を学びます。グループワークでは、日頃の業務における悩み、そして喜びを分かち合ひましょう。日々、充実している方も、不安を抱えている方も、新任ケースワーカーなら誰でも参加できます。みんなで一緒に楽しく学びましょう。

講師：今井 伸さん（十文字学園女子大学） 助言者：先輩ケースワーカー

【分科会10】 居住支援 13:00-16:30

「居住支援 住まいは福祉の基盤」

住居は福祉の基盤であり、高齢者、障がい者、ひとり親世帯、生活保護利用者、生活困窮者、ホームレス状態の方、外国人など様々な方にとって生活の基盤になります。居住と生活支援は福祉の両輪です。本分科会では居住支援について、講師の講義、報告者の長野県での福祉実践報告をふまえて、居住支援の現状、課題、展望について参加者の皆様とディスカッションします。分野を問わず多くの方のご参加をお待ちします。

講師・助言者：阪東美智子さん（国立保健医療科学院） コーディネーター：常数英昭さん（社会福祉士）
報告者：佐藤もも子さん（長野県社会福祉士会） 八木航さん（NPO法人サポートセンターとまり木）
西村行弘さん 船山佳洋さん（いずれも社会福祉法人信濃福祉、救護施設旭寮）

【分科会11】 アディクション 13:00-16:30

「依存症への理解を深める」～回復への道を共に考える～

アディクション分科会では、アルコール依存症を中心に「そもそも依存症とはなにか？」について専門医療機関の実践報告から学びます。当事者の話、自助グループの活動や事例、医療と福祉の連携から、回復のイメージを共有していきましょう。グループワークも行う予定です。依存症者に対する支援をみなさんで考えましょう。

講師：佐藤 みずきさん（長野県立こころの医療センター駒ヶ根地域連携室）
報告者：三本 舞さん（諏訪共立病院地域連携相談センター）
米窪 由治さん（アルコール依存症回復者本人） 生活保護ケースワーカーを予定

【分科会12】 就労支援 13:00-16:30

「就労支援」～プチバイト（少額給付）から広がる信州モデル！？～

プチバイトは、長野県内の社会福祉法人、社協等が財源を拠出して平成27年にスタート。就労体験と少額給付(2万円以内)をセットで実施し、就労支援のファーストステップとなっています。プチバイトをきっかけに広がる信州の就労支援実践を、自立相談支援機関、生活保護CW、児童養護施設の立場からご報告。また、就労支援の現状、課題、展望について参加者の皆様とディスカッションします。分野を問わず、ご参加をお願いします。

講師・助言者：下村 幸仁さん（佐久大学）
報告者：各務 甲子雄さん（生活就労支援センターまいさぼ信州諏訪）
宮下 典也さん（児童養護施設慈恵園） 生活保護ケースワーカーを予定

【分科会13】 知的障がい者福祉 13:00-16:30

「知的障がい者の地域での自立生活を支える生活保護制度と障がい者支援の諸サービス」

知的障がい者は周囲からの理解が得られにくく、当事者の方は生きづらさを感じていることが少なくありません。生活保護現場においても支援できていない状況が多々あるようです。知的障がい者を取り巻く状況と地域生活を支援する実践報告を中心に、生活保護制度と知的障がい者支援の連携とその役割について議論します。当事者の参加を得て、知的障がい者の地域での自立生活実現のために必要な要素を考え、理解を深めていく分科会です。

報告者：金井祐樹さん（ほっとらいふ相談室桃の郷） 小林千香さん（長野市北部障害者相談支援センター）
香川泰将さん（特別区社会福祉事業団） 自治体の知的障害者福祉司 知的障がいを持つ当事者

特別企画 柳沢京子さんトークショー&ミニ個展

トークショー：2日目 12:20-12:40（全体会場） ミニ個展：セミナー期間中常設展示

長野県佐久市出身の切り絵作家、柳沢京子さんのトークショー&ミニ個展を特別企画として開催します。全国公的扶助研究会の機関誌「季刊 公的扶助研究」の表紙へ作品提供していただいているご縁もあり、地元でのセミナーにお越しいただくことになりました。線と影が織りなすコントラストの美しさ、柳沢さんの切り絵の世界に魅了されること間違いなし。ぜひ、この機会にお楽しみください。

柳沢京子さんプロフィール

1944年長野県佐久市に生まれる。1966年信州大学卒業。1998年NHK 地域放送文化賞受賞。

参加費

セミナー参加費

参加区分	対面参加 アーカイブ視聴可能	アーカイブ配信のみ視聴
一般	10,000円	3,000円
会員	5,000円	2,000円
学生	5,000円	2,000円
長野県在住 or 在勤	5,000円	2,000円
生活保護利用者	無料	無料

セミナー資料集の配布は予定していません。

各企画のレジメをダウンロード・印刷して、ご持参ください。

アーカイブ配信は、セミナー終了後、準備が整い次第、視聴方法をお知らせします。

懇親会参加費 5,500円 先着200名 10月11日申込締切（ただし、定員に達し次第終了）

支払方法・キャンセル

支払方法

クレジットカード払い または 銀行振込（振込手数料は参加者でご負担ください）

※公費払いをご希望の自治体担当者は参加登録前に事務局までお問い合わせください

キャンセル

決済後のキャンセル・返金は原則できません

全国公的扶助研究会への入会をセミナー参加申込に合わせてご検討下さい

・全国公的扶助研究会未入会の方

会員年会費 6,000円のお支払いで、セミナー参加費が一般価格から会員価格 5,000円となります。
さらに、機関誌「公的扶助研究」1年分（4冊 3,200円相当）が手に入ります。

（年会費 6,000円 + 参加費 5,000円 = 合計 11,000円）

※年会費は年度単位です

・機関誌「公的扶助研究」を定期購読されている方

機関誌年間購読料に **2,800円**を足すことで、全国公的扶助研究会の会員となり、セミナー参加費が一般価格から会員価格となります。

申込方法

第55回公的扶助研究全国セミナー長野大会参加登録フォームからお申し込みください

⇒ https://convention.kijima-p.co.jp/participation_sys/kofuken55/

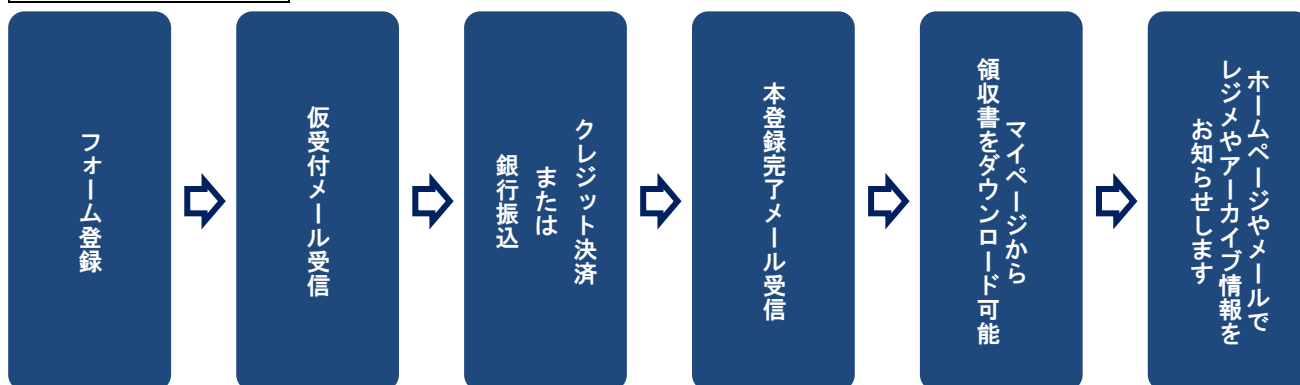
下記ウェブサイトからも参加登録フォームへアクセスできます。

・全国公的扶助研究会ホームページ・公的扶助研究会フェイスブック
参加登録はセミナー当日でも可能ですが、レジメのダウンロード方法などのお知らせメールを送付しますので早目の登録をお願いします。



参加登録フォーム
QRコード

参加登録の流れ



レジメのダウンロード方法やアーカイブ情報は、用意ができ次第、参加者へお知らせします

車椅子ご利用の方、視覚障がいや聴覚障がいがある方など、
アクセシビリティの確保について、不安がある方は、遠慮なくお問い合わせください。

レジメ・資料・アーカイブ配信

レジメ・資料

各企画ごとにレジメ・資料を作成し、web上に限定公開します（PDFファイル）。

開催1週間前を目途にダウンロード方法をお知らせします。

各自、必要に応じてダウンロードや印刷をしてください。

※レジメ・資料の無断複製・共用は禁止します

※セミナー資料集の配布は予定していません

アーカイブ

一部の企画を期間限定・参加者限定でアーカイブ配信します。

セミナー終了後、準備が整い次第、視聴方法をお知らせします。

※アーカイブは参加者のみ視聴することができます

※アーカイブの録画・録音は禁止します

全国公的扶助研究会の活動について

全国公的扶助研究会は、生活保護ケースワーカーや研究者のみならず、生活困窮者自立支援、高齢者福祉、障がい者福祉、児童福祉、地域福祉など、公・民間問わずさまざまな現場で活躍をしている会員が所属し、日々活動をしています。具体的には、

- 全国セミナー、各地（関東、関西、九州・沖縄、東海など）ブロックセミナーなどの研修開催
- 書籍・ブックレット・ガイドブックなどの出版活動
- メーリングリストを活用した会員同士の情報交換
- 他団体とのイベントの共催、講師派遣

を活動の柱としています。

全国セミナーは例年500名を超えるご参加をいただき、多数の分科会や講座などの企画を開催し、新たな学びの場としてはもちろん、より良い公的扶助を志す全国の仲間との出会いの場としても毎年好評をいただいています。毎年全国さまざまな場所で開催し、新たな公的扶助研究の芽を各地に育てていくことに取り組んでいます。

全国公的扶助研究会は、上記のような取り組みと一緒に担ってくれる仲間を募集中です。やり甲斐、達成感が感じられるだけでなく、第一線で働く仲間たちにも数多く出会えます。入会申込は全国公的扶助研究会のホームページからできます！

会員年会費 6,000 円（年度単位/年間4冊の機関誌購読料を含む）

会員になると全国セミナー参加費割引
機関誌もついてきます！

機関誌『季刊 公的扶助研究』

年間購読料 3,200 円
（年間4冊、送料含む）

全国公的扶助研究会では、公的扶助の現場の最新情報を解説し、今現場で何が起きているのか、法制度の状況はどうなっているのか、公的扶助における援助技術のあり方、等を広く読者の皆さんと共有するため機関誌『季刊 公的扶助研究』を年に4回（1、4、7、10月）発行しています。

【過去の特集テーマ】

「自治体間の格差を考える」
「制度の狭間で」
「地域を基盤とした連携」

「コロナ禍で問われる公の役割」
「子ども・若者・女性支援の現状」
「利用者とともにあるために」

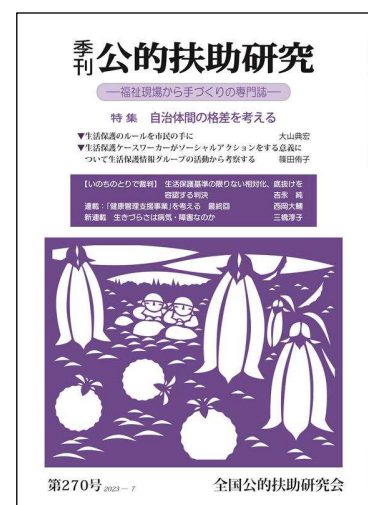
現場から手づくりの機関誌、ぜひ手にとってお読みいただきたいと思います。
お問い合わせは全国公的扶助研究会 (<https://www.kofuken.com/>) まで！



全国公的扶助研究会
facebook



全国公的扶助研究会
ホームページ



柳沢京子さんの切り絵が目印
「季刊 公的扶助研究」

宿泊申込について

宿泊申込は、日本旅行佐久平サービスが代理店となり、受付します。

「令和5年度『第55回公的扶助研究全国セミナー長野大会』ご宿泊のご案内」をお読みの上、案内に記載されたFAX または e-mail へ申込ください。

代理店による宿泊申込は10月7日（土）までとなります。

ホテル名	佐久大学までのアクセス	住所
佐久プラザ21	徒歩約20分	長野県佐久市佐久平駅東2-6
アクアホテル佐久平	徒歩約21分	長野県佐久市佐久平駅北23-6
東横イン佐久平	徒歩約22分	長野県佐久市佐久平駅北1-1
佐久一萬里温泉ホテル	車で約10分	長野県佐久市中込3150-1
佐久グランドホテル	車で約15分	長野県佐久市中込3-19-6

問い合わせ先・その他

セミナーに関する問い合わせ先

全国公的扶助研究会事務局

⇒ 電子メール zenkoku_koufukenn@yahoo.co.jp

⇒ FAX 050-3730-2116

- 件名は「全国セミナーについて」と明記して下さい。
- 電話やFAXによる回答を希望される場合はその旨を明記し、連絡先の番号を付記して下さい。
- 参加費の公費払いをご希望の自治体担当者は参加申込の前にご連絡ください。
- 参加登録後に一般参加から会員参加へ変更する場合はご連絡ください。
- 回答は、後日になる場合があります。

その他

新型コロナウイルス感染拡大など不測の事態により、予定していた内容で企画が行えなくなる場合があります。その際は、速やかにホームページ・Facebook でお知らせします。

会場

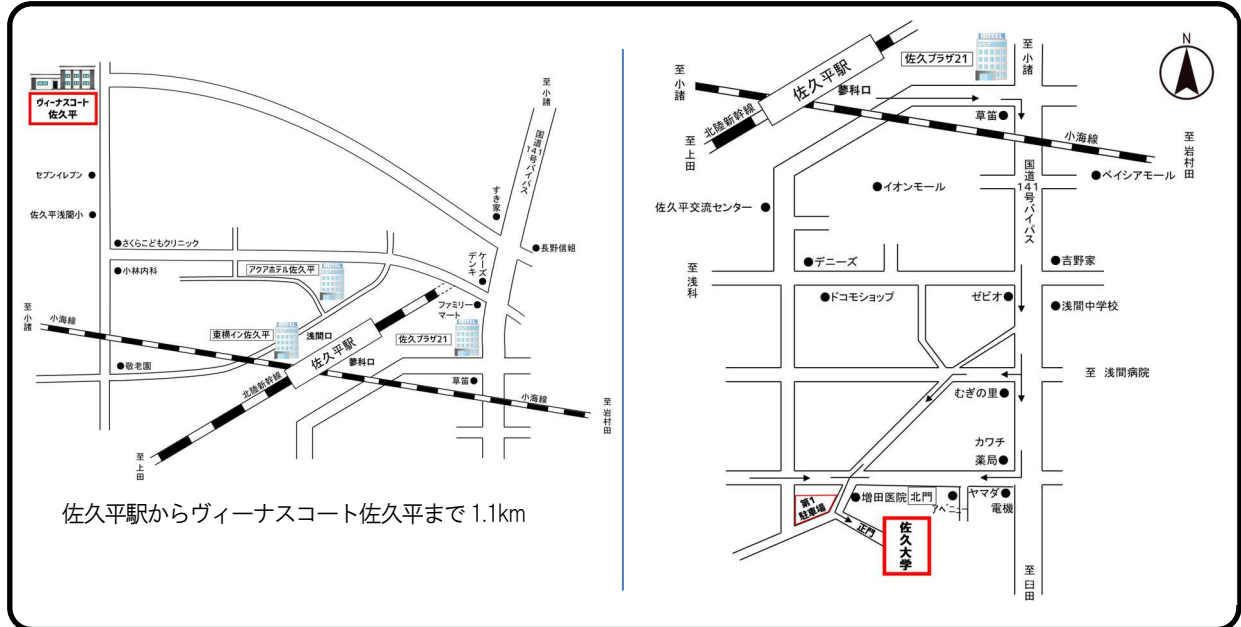
佐久平駅周辺マップ

佐久大学 〒385-0022 長野県佐久市岩村田 2384

北陸新幹線「佐久平駅」、JR 小海線「佐久平駅」から徒歩 20 分 (1.5km)

上信越自動車道「佐久インター」から車で 10 分、中部横断自動車道「佐久中佐都インター」から車で 3 分

ヴィーナスコート佐久平 〒385-0021 長野県佐久市長土呂 1169-7 電話 0267-67-6000



佐久大学キャンパスマップ



キャンパスへは正門より入構してください。

お車でお越しの場合は、正門前の第1駐車場をご利用ください。

(周辺店舗の駐車場、周辺道路には駐車しないでください)

セミナー受付は6号館です

各企画の教室情報は、当日配布の「セミナーしおり」でお知らせします